

主 題：私を愛しますか1

聖書箇所：ヨハネの福音書 21章15-19節

今朝はヨハネ21：15からみことばを学んでいきます。その箇所を読みます。「15彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなただを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの小羊を飼いなさい。」16 イエスは再び彼に言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなただを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を牧しなさい。」17 イエスは三度ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロは、イエスが三度「あなたはわたしを愛しますか。」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ。あなたはいっさいのことをご存じです。あなたは、私があなただを愛することを知っておいでになります。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」

この主イエス・キリストとペテロとのやり取りは非常に大切なことを私たちに教えてくれます。この箇所を今から学んでいきますが、背景を簡単に説明します。弟子たちはガリラヤでイエス・キリストを待っていました。そして、あるとき、彼らは漁に出かけます。それはペテロ自身が「私は漁に行く。」と言い出したからで、他の弟子たちは彼に従いました。彼らは普段通りに夜遅くから明け方まで漁をしました。しかし、魚を獲ることはできませんでした。そのとき、岸辺に立つある人から声が掛かります。「舟の右側に網を下ろしなさい。」と。その指示に従うと、網を引き上げることができないほどの魚が網に掛かりました。空が白み始めた頃、やっと彼らはこの指示を与えた方がイエスであったことが分かります。それに気付いたペテロは湖に飛び込んでイエスの所に向かいました。残りの弟子たちが陸に上がったときに、彼らはそこにはイエスによって炭火と魚とパンが用意されていたことに気がきます。そして、彼らは主とともに朝食を取り、そこで今見た主の質問がペテロに対して為されるのです。

この質問はペテロにとって非常に大切な質問でした。また、同じように、その場に居た六人の弟子たちにとっても大切な質問でした。そして、この質問は時代を越えて、私たちにとっても大切な質問です。あなたの信仰、また、信仰者としてのあなたの歩みを再考する意味でも大切な意味をもっています。自分自身の信仰がどうなのかを考えるのに非常に大切な質問をペテロはここで主から受けているのです。ですから、この大切な主とのやり取りを見ていきましょう。明らかに、この箇所には二つのレッスンがあります。一つはペテロに対するレッスンであり、もう一つはペテロ以外の弟子たちに対するレッスンです。

☆二つのレッスン

A. ペテロへのレッスン

ペテロに与えられたレッスンは、彼の問題であるプライドを彼に悟らせそれを捨て去るためのレッスンです。彼が問題であったプライドを捨てて主に従う者と変えられるために必要なレッスンでした。この質問を見ると、基本的にイエスはこのことを聞かれています。

イエスの質問＝「あなたはわたしを愛しますか？」

そして、この質問を三度繰り返していることを今読んだ箇所から気付かれたと思います。ただ、同じ「愛する」ということばが記されているのですが、イエスの三つの質問の「愛する」は同じ単語は使われていません。最初の二つは「アガパオー」、名詞では「アガペー」という単語です。

「アガパオー」＝知性、理性、意志に基づいた愛

感情的なものではありません。そこには「知性、理性、意志」があるのです。聖書を見るときに、この「アガペーの愛」は「神の愛」だと言われます。なぜなら、神が私たちを愛してくださった愛は、まさに、このアガペーの愛だからです。みことばを見ましょう。

ヨハネ3：16＝「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

マタイ5：44＝「しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。」

マタイ22：37, 39＝「そこで、イエスは彼に言われた。「『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』、『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。」

マルコ10：21＝「イエスは彼を見つめ、その人をいつくしんで言われた。「あなたには、欠けたことが一つあります。帰って、あなたの持ち物をみな売り払い、貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に

宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい。」

これらの「愛」はすべて「アガペーの愛」です。まさに、神がそのような愛をもって人々を愛しておられるからです。そして、私たちにもそのような愛をもって神を、また、隣人を愛するようにと主は命じておられるのです。

最初の二つの質問はこの愛をもって「あなたはわたしを愛するか？」と問われているのです。でも、三つ目の質問で使われている「愛」は、アガペーではなくて「フィレオー」という単語です。

「フィレオー」＝感情による愛、だれかを好く、だれかを好む

なぜ、イエスはこのようにことばを変えたのでしょうか？それは主の質問に対してペテロは常に「フィレオー」という愛をもって応答していたからです。それでイエスは最後に彼が使った「フィレオー」を用いて「では、その愛でわたしを愛するか？」と問われたのです。

イエスの質問を見るときに、ここには主ご自身の愛と思いやり、やさしさ、そして、知恵が溢れています。私たちが覚えておかなければいけないことは、この質問の意図は「主がペテロをお用いになるために彼のプライドを砕くこと」ということです。ペテロが主によって大いに用いられるためには、彼が抱えているこのプライドの問題を克服することが必要だったのです。そのために、主は彼にそのことを気付かせ、彼を砕いて謙虚なクリスチャンへと変えようとされるのです。主がお用いになるためにはペテロにこのレッスンが必要だったのです。時代を越えて、実は、あなたにも私にもそのことが必要なのです。神はプライドのある者をお用いにならない、主の前に謙虚な者をお用いになるからです。

さて、このレッスンをしっかり見ていきましょう。イエスはペテロに彼自身のプライドに気付かせようとしたが、そのイエスの思惑は、実は、イエスのこのペテロに対する呼び名にも現われています。

◎呼び名：「ヨハネの子シモン」（1：42）

イエスはペテロに対して「ペテロ」と言わず、「ヨハネの子シモン」と呼んでいます。マタイの福音書を見ると「ヨナの子シモン」と言われていますが同じです。なぜ、このような呼び方をされたのでしょうか？「ヨハネの子シモン」というのは彼の生まれつきの名前です。彼が信仰に至った時に、主ご自身がこのヨハネの子シモンに「ペテロ」という名前を与えています。それはこのヨハネ1：42に記されています。繰り返しますが、主ご自身が「ペテロ」という名を与えたにも関わらず、この場においてなぜ彼を「ペテロ」と呼ばないで、救われる前の名前と呼んだのでしょうか？二つの理由を考えることが出来ます。どちらも、主がこのようにお呼びになったことによって、自分はいかに主の前に罪深い者であるかということをもペテロ自身に悟らせるためです。

◎その理由：

（1）救われる前のペテロ自身を彼に思い起こさせるため

彼の罪深さを主はご存じです。ペテロが分かっていなかったのです。ペテロはどんなことをしたのでしょうか？もちろん、記されていない数多くの罪があることは明らかです。しかし、特出されている出来事は、三度「イエス・キリストを知らない」と否んだというあの出来事です。イエス・キリストが捕えられて大祭司カヤペの所に連れて来られました。そこでさばきを受けるのですが、そこでペテロを見つけた大祭司の女中たちが、また、人々がペテロに「おまえはイエスの仲間だろう。イエスとともにいただろう。」と言うのです。それを聞いた時にペテロは必死になってそれを否定しました。「イエスのことなど知らない」と否定し、最後にはのろいをかけて誓ったと書かれています。「私は神に誓って断言する。イエス・キリストのことなど私は全く知らない。」と。このような悲しい罪の出来事があった訳です。

なぜ、イエスはペテロを「ヨハネの子シモン」と呼んだのか？それはあの場で「主を知らない」と叫んだペテロ、まさに、彼がしたことは救われていない人が行う行為です。救いに与る前の人たちが行う行為だと主はペテロに悟らせるのです。あなたは神を愛する者ではなくて、愛していない者に相応しい行動をしたと言うのです。なぜなら、イエスを知らない人たちは「私はイエスのことを知りません」と言います。「神に誓って言います。彼のことを知らない。」と言います。それは彼らが主イエスのことを知らない、つまり、信じていないからです。まさに、ペテロがした行為はそれと同じだと言うのです。ですから、救われる前のペテロ自身を彼に思い起こさせようとしたのです。

（2）ペテロ自身の罪深さを認識させるため

というのは、主イエス・キリストがペテロのことをこのような名で呼んだことは、今見ているこの箇所以外にももう一箇所記されています。それはこのような出来事のときでした。イエスが弟子たちにこのようなことを聞きます。マタイ16：13「人々は人の子をだれだと言っていますか。」、14-15節「彼らは言った。「バプテスマのヨハネだと言う人もあり、エリヤだと言う人もあります。またほかの人たちはエレミヤだとか、また預言者のひとりだとも言っています。イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」、そのときにペテロは言います。16節「あなたは、生ける神の御子キリストです。」と。そのときに主はこの名前を使ったのです。17節「するとイエスは、彼に答えて言われた。「バルヨナ・

シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。」ですから、ここでイエスはその名前を改めて使うことによって、「ペテロ、あなたはあの時にはわたしが生ける神の御子キリストだと公言した。それなのに、あなたはわたしを知らないと言った。」と言われたのです。

◎「炭火」

この出来事を思い出させて、イエスはこのペテロの罪深さを明らかにしようとしますが、もう一つのことをこのみことばの中に見て取ることができます。21：9を見ると「こうして彼らが陸地上がったとき、そこに炭火とその上に載せた魚と、パンがあるのを見た。」、ここに「炭火」と書かれています。ヨハネの福音書にはもう一箇所「炭火」ということばがあります。18：18に「寒かったので、しもべたちや役人たちは、炭火をおこし、そこに立って暖まっていた。ペテロも彼らといっしょに、立って暖まっていた。」と書かれています。先ほど話した大祭司カヤパの中庭でのことです。そのときに、寒かったから炭火を起こして人々は暖をとっていたのです。ですから、イエスがここで炭火を用意しておられたのは、もしかすると、ペテロがそれを見て、暖をとっていたあの夜のこと、イエスを否んだときのことを思い出したかったかもしれません。いずれにしろ、主は明らかにこのペテロに、彼自身がどれ程弱い罪深い者であるかということを教えようとされるのです。

◎主イエスの質問

三つの質問はみな同じです。主の質問があり、そして、ペテロの応答があり、そして、主の命令があります。

1. 「あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」 15節

一つ目の質問は15節に書かれています。

(1) 主の質問：「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」と、このように主ご自身が質問しておられます。この主の質問は、これまでのペテロの信仰の姿勢を問うたのです。なぜなら、ここで「この人たち以上に」と比較を強調しているからです。だから、この質問を次のように言うことが出来ます。「あなたはこの他の弟子たち以上に、わたしを心から献身の伴った最高の愛で愛するか？」と。主はここで愛の優劣を問うているのです。「この人たち以上に」と。なぜ、こんなことを言われたのでしょうか？それがペテロだったからです。ペテロはそのようにして優劣を付けていたのです。ペテロは弟子たちの中で、自分がだれよりも主を愛していると自負していました。

覚えていますか？マタイの福音書26章、また、マルコの福音書14章にも出て来ますが、イエスが弟子たちと話している時にペテロはこのように言いました。マタイ26：33-35「すると、ペテロがイエスに答えて言った。「たとい全部の者があなたのゆえにつまずいても、私は決してつまずきません。」：34 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度、わたしを知らないと言います。」：35 ペテロは言った。「たとい、ごいっしょに死ななければならぬとしても、私は、あなたを知らないなどとは決して申しません。」弟子たちはみなそう言った。」、ペテロはこのような告白をしたのです。ペテロは他の弟子たちと比較して、「彼らはずまずいても、あなたを知らないと言っても、私はそんなことをしません。彼らが自分のいのちを乞いをしたとしても、私は喜んであなたとともに死にます。」と。ペテロは自分の信仰をこのように自負していたのです。私は霊的な人間であるし、私の信仰は他の弟子とは違うと…。そこで、主を三度否んだペテロに対して、「あなたはこれまで他の信仰者たちと自分の信仰を比較して、自分が優れていると思って来た。では、今でもあなたは周りにはいる弟子たちよりもわたしを心から献身的に愛するか？」と、主はペテロにこのような質問をなされたのです。主は彼のプライドを砕かれるのです。ペテロは自分の信仰の弱さを思い知らされるのです。

(2) ペテロの応答

そして、ペテロの応答を見てください。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたご存じです。」と、ここでペテロは主がお使いになった「アガパオ」を使っていません。なぜ、使わなかったのか？これまでのペテロだったら当然「主よ、私はアガパオの愛をもってあなたを愛します。他の者がどうであろうと…」とそのように答えたはずです。しかし、彼はそのことばを使おうとしません。それは自分の本当の姿に気付いていたからです。だから、使わなかったのではないのです。使えなかったのです。彼は「私は死にまで従順に従います。」と言っていたのに、いざ、死の危険を感じた時には、主のことよりも自分の思いを選択してしまった自分の弱さ、自分の愚かさというものを彼は痛感していたのです。これまで自分の信仰を他の人のものと比較して、自分が霊的であると自負し、人々を見下して来た高慢な態度がいかに大きな罪であったのかということを改めて彼は知ったでしょう。恐らく、彼の心に中には「何と情けない者なんだろう。何と悲しい存在なのだろう。」という思いがあったのでしょう。それゆえに、「あなたをだれよりも心から愛します。」とは言えなかったのです。

そこで彼がしたことは「すべて主に任せる」ことです。主にその判断を仰いでいます。ペテロは「私

は自分の心を見た時に、確かに、そこには神への愛がある。でも、行動を見た時にそこには一貫性がない。私は自分の思いに反することを言っている。だから、心の中のすべてのこと、すべての思いや考えをご存じの主はこの判断を委ねたい。私は主に対してこんなに大きな罪を犯したけれど、主は私の心をご存じだ。」と。自分で「出来ます」とは言いませんでした。彼は「私の心をあなたはご存じです。」と言ったのです。(ヨハネ2：25「また、イエスはご自身で、人のうちにあるものを知っておられたので、人についてだれの証言も必要とされなかったからである。」、Ⅱコリント11：31「主イエス・キリストの父なる神、永遠にほめたたえられる方は、私が偽りを言っていないのをご存じです。」、ガラテヤ1：20「私があなたがたに書いていることには、神の御前で申しますが、偽りはありません。」)

(3) 主の命令

その後を見ると、主はその応答をお受けになったことが分かります。ここでペテロの応答に対して主は非難していません。その応答をお受けになった。そして、主はペテロに対して命令をお与えます。「イエスは彼に言われた。『わたしの小羊を飼いなさい。』」と。この「小羊」とは羊の中でも弱い未熟なものです。常に食べ物が必要なものです。ですから、「小羊を飼いなさい。」と言っています。「飼う」とは「食物を与える」ということです。皆さん、お分かりのように、ペテロに「では、羊飼いになりなさい」と言っているのではありません。主イエスを信じて救われた者たちのことです。信仰を持っているけれども、信仰的に非常に弱い者たちがいるから、彼らをしっかりと食べ物を与えて養っていきなさい。霊的な食べ物であるみことばを与えて彼らを養っていきなさいと、そのように命令を与えるのです。

2. 「あなたはわたしを愛しますか。」 16節

(1) 主の質問

二つ目の主の質問は「アガパオの愛」の有無を問うています。そのような神の愛があるのかどうかということです。ですから、この質問はこのように言えます。「あなたはわたしを心からの献身の伴った最高の愛をもって愛するか?」。神の愛をもってわたしを愛するかと主はペテロにこの質問を与えます。もちろん、これまでのペテロなら「はい」と答えたでしょう。しかし、ペテロの応答を見てください。

(2) ペテロの応答

16節「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」、ペテロの応答は先ほどの応答と同じです。「すべてのことを知っておられる神にすべてをお委ねします」です。

(3) 主の命令

主はその応答をお受けになって、そして、新たな命令を与えました。「わたしの羊を牧しなさい。」と。先は「小羊」でしたが、今度は「羊」になっています。そして、「飼いなさい」ではなくて「牧しなさい」と言われました。「牧する」とは「世話をする」ということです。なぜなら、羊は導きが必要だからです。放っておくと様々な道に迷ってしまうからです。だから「しっかり世話をしなさい、正しく導いてあげなさい。」とそのように言われたのです。

3. 「わたしを愛しますか。」 17節

(1) 主の質問

三つ目の質問を見てください。17節に「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」とあります。先は「アガパオ」の愛があるかどうかということを知りました。今度はこのペテロが使っていた「フィレオ」の愛があるかどうかを問うているのです。では、あなたが言っているその愛があなたのうちにありますか?と。別の言い方をすると、「あなたはわたしのことが好きなのか?」と、そのように問いかけるのです。なぜなら、ペテロはずっとそのように応答して来たからです。「本当にわたしのことが好きなのか?そのような思いがあなたのうちにあるのか?」と主は問われたのです。

(2) ペテロの応答

それに対してペテロはこのような応答をしています。17節を見てください。「ペテロは、イエスが三度『あなたはわたしを愛しますか。』と言われたので、心を痛めてイエスに言った。」とあります。「心を痛めて」とは「悲しんで」ということです。恐らく、彼自身気付いたのでしょう。私が愛する主を否んだという行為は「主が好きだ」と言う者としても不適当な行為であったと。この質問を聞きながら、ペテロは自分の愚かさ、罪深さ、弱さに気付いています。そこで彼は同じように答えます。「主よ。あなたはいつさいのことをご存じです。あなたは、私があなたを愛することを覚えておいでになります。」と。彼はここで「好きです」とも言えませんでした。これまでの二度の質問に対して「はい、私はアガパオの愛であなたを愛します。」と言えなかったペテロ、では、あなたが言っている「フィレオ」の愛でわたしを愛するか?わたしのことが好きか?と言われたときに、それに対してもペテロは「はい、私はあなたのことが好きです。」と答えられなかったのです。彼は自分の心を信じるができなかったのです。どういう意味でしょう? 私たちもよくそのことを感じると思いますが、心では確かに主を愛しているのに、主を悲しませることを私たちは行なっています。「主を愛している」と言いながら、私たちは主が憎まれ

ることを選択していませんか？自分の罪深さに皆さん気付いておられるでしょう。確かに、イエス・キリストのことを愛している、でも、私たちがしていることはそれと真逆のことではありませんか？私たちはなぜ主を愛しているのに主が悲しまれることを平気とするのでしょうか？主のみこころが何かを聞いているのに、なぜそのみこころに反することを選択するのでしょうか？パウロのことばを借りるなら、「私は自分のしていることが分かりません。」となります。もう、私は「神のことを愛しています」とそのように口にするのも疑わしいと。でも、はっきりしいていることは、心の中に主に対する愛がある。そして、神はそのことを知っておられる。私の心の中の奥底を神は見ておられるから、私のうちに主に対する愛があることを神はご存じであると確信します。

(3) 主の命令

その応答に対して主はそれをお受けになって、また、命令を与えられます。「わたしの羊を飼いなさい。」と。今度は「牧しなさい」ではなくて「飼いなさい」と言われました。しかも、この三回のイエスの命令を見た時に、そのすべてに「わたしの」と記されています。つまり、イエスは「ペテロ、わたしはあなたに大切な命令を与えます。これから、わたしはあなたにわたしの羊を、わたしの小羊を託します。」と言われたのです。主が愛しておられる信仰者をあなたに託するということです。ペテロはものすごく大きな務めを主からいただくのです。教会には羊も小羊もいます。信仰的にまだ弱い者たちがいるのです。しっかりみことばをもって養ってあげなさい。そこには羊がいるのです。確かに、未熟ではないけれど自分の考えに沿って生きていく者たちがいるのです。彼らをしっかりと正しく導きなさいと言います。そして、彼らを導くだけでなく、彼らの世話をするだけでなく、同時に、彼らにもみことばが必要だから、みことばしっかりと教えて養っていきなさいと言います。小羊も羊も主に属する者たちだからです。ペテロに与えられた務めは、みことばをもって、主がいのちを捨てて救われた愛する者たちの世話をすること、彼らを養うことです。

そして、その責任を私たち牧会者に神は与えたのです。なぜ、私たちがみことばに立って、みことばを忠実に語り続けていこうとするのか？それが牧会者に与えられた務めだからです。その働きが出来ないなら、私たちは主の前に申し開きをしなければいけません。あなたに何を責任として与えるのかが明確だからです。マタイの福音書28章20節に「また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。」と書かれています。神が言われたことを彼らがしっかりと学び、それを実践して行くように教えていきなさいと。ですから、私たちは我々の考えではなくて、神が言われていることを皆さんにお伝えしなければいけないのです。そして、お伝えするだけでなく、皆さんがそれを守ることによって皆さんが主によって変えられていくようにすることです。皆さんが益々変えられて、そして、成長することによって、皆さんを救い、皆さんを成長させておられる主の栄光が現わされていくからです。だから、みことばを語っていきなさい、みことばをしっかりと教えていきなさいと、ペテロにこのような命令が与えられ、そして、ご存じのようにペテロはその命令に忠実に従うのです。

ペテロへのレッスンは彼を砕くためでした。彼が砕かれなければ、神によって用いられることがないからです。そして、残った弟子たちに対するレッスンがこの後にあるのですが、そのレッスンを見る前に、このペテロとイエスとのやり取りを見て、救われていることの証拠についてみことばが教えていることを見ましょう。

◎ペテロの救いの確信

確かに、ペテロは罪を犯したのです。今、私たちは彼のある罪を特にクローズアップしていますが、もちろん、彼も我々と同じように数々の罪を犯しました。弱かったのです。そして、私たちと同じように、罪を犯した時に「こんな罪を犯した私は本当に救われているだろうか？」とそのように思うこともあるでしょう。しかし、そのような中であってペテロが言ったことは「でも、私の心の中には主に対する愛がある。私は主のことが大好きだ。確かに、いろんな罪を犯したし、主を悲しませることもたくさんしたけれど、でも、私の心の中には主に対する愛がある。」と。それこそ、その人物が救われていることの証拠です。なぜなら、ペテロ自身がこんなことを彼の口を通して語っているからです。I ペテロ1:8-9「あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。」と、イエス・キリストを見たことはないけれどもイエス・キリストのことを愛していると言うのです。そして、9節「これは、信仰の結果である、たましいの救いを得ているからです。」、救われているからだと言うのです。つまり、主によって救われた者たちには、主ご自身が主に対する愛を与えてくださる、そのことをペテロは私たちに教えるのです。だれかがやって来てペテロに「ペテロ、あなたは救われている。あなたはあのような祈りをしたから、あんなことをしたから…」と言ったからではありません。神ご自身がペテロにそのことを教えているのです。

救われているかどうかということは、主への愛があるかどうかによって明らかになります。その人の

うちに主に対する愛があるかどうか、そのことによってその人が救われているかどうか明らかになります。「神を愛すること」、これこそ救われていることの証拠の一つであるとペテロは言います。また、この主への愛は必ず行ないとなって現われて来るものです。ペテロは間違いなく主を愛していました。心の中には主に対するそのような愛がありました。主のことが好きでした。そして、それは彼の心の中に確実に存在したので、そのことが行動となって出て来たのです。

・ペテロが砕かれていったプロセス

(1) 彼は罪から離れようとしまず

(2) そして同時に、主の命令に従い続けました

彼らはなぜガリラヤに行ったのですか？エルサレムいた彼らがガリラヤへ行ったのは、主がガリラヤの山でお会いすると指示されたからです。だから、出て行ったのです。そのようにみことばは教えます。そして、今私たちが見て来ているように、この主の命令をいただいたペテロはこの後、この命令を忠実に果たしていきます。ですから、ペテロ自身を見た時に、罪から離れようとし、そして、神に従順に従おうとしている。そのような彼の生き様を見る時に、確かに、ペテロは神を愛していたということが明らかなのです。人からそのことを促されて信じ込むのではないのです。主がその確信を与えてくれるのです。だれかから言われなくても、救われた人たちの中には主に対する愛情があります。それが神によって救われたことの証拠であり、本人がそのことに気付くのです。「私のうちには愛がある！」と。

B. 他の弟子たちへのレッスン

ペテロ自身へのレッスンは、彼自身の問題であるプライドを彼の心から除くことでした。皆さん、なぜ、イエスはこのペテロとの会話を他の弟子たちのいる前でされたのか、考えたことがありますか？ペテロに教えようとするのなら、イエスはペテロだけを呼ぶことが出来ました。「ペテロよ、あなたに説明しなければならないことがある。こんな問題が…」と…。ところが、人々の前でイエスはなされたのです。その理由が二つあります。

(1) ペテロに対する非難を払拭するため

弟子たちもペテロが主イエスのことを三度否んだことを知っていたでしょう。ある人は思ったかもしれませんが、「ペテロはこんなことをしたのですよ…」と。そこで、そのような人々の前で、主がすべての罪をお赦しになっておられること、そのことを明らかにされるのです。

(2) ペテロの罪が赦されて、再び、使徒としての働きに回復されたことを公にした

今、見て来たように、主はペテロに命令を与えました。「わたしの羊を飼いなさい。羊を牧しなさい。わたしの愛する子どもたち、わたしを信じてこの救いに与った者たちをしっかりと育てていきなさい。」と。この後、ペテロはその働きをするのです。そのことに対してだれも疑いをもちませんでした。なぜなら、彼らは、イエスがそのことをペテロに命じたことを目の当たりにしたからです。そのために、ペテロがこれから大いに用いられていくために、主はこのようなご配慮をなされたのです。

ペテロと主のこのやり取りは大切なことを私たちに教えてくれます。皆さん、神は謙虚な者しかお使いにならないのです。なぜなら、プライドの高い人は、神ではなくて自分自身が栄光を受けようとしまず。「自分がやった！」と言うのです。自分の知恵だ、自分の力だと…。でも、砕かれた者は「私ではなくて主がなされた。」と主に栄光を帰します。神はそのような人をお使いになるのです。

もう一つ考えたいことは、確かに、我々は主の働きを見て来ました。ペテロのその罪深さを示されてそれを砕いていかれるイエスのことを見て来ました。自分の罪が示されることによって、ペテロ自身が本当にそのことを嘆いています。そのことを悲しんでいます。もちろん、それらのことを通して、ペテロ自身の悔い改めが真実であったことは明らかです。でも、一つ忘れてるのは、ペテロが主イエス・キリストを否んだ時に、主ご自身がどのような思いを持っておられたかということです。皆さんはそのことをお考えになったことがありますか？ペテロが罪を犯したとき、ペテロがイエス・キリストのことを知らないで公にした時に、主はどんな思いを持っていらっしゃったのか？主はそのことばを聞いて喜んでおられたでしょうか？当然、悲しんでおられた。ペテロがそのようなことを口にするのを聞いて、主は心を痛められたはず。そのことを考えると皆さん、今あなたの歩みをご覧になっている主は、あなたを見て喜んでおられるかどうかです。あなたの歩みを見ておられ、あなたの考えを知っておられる主は、あなたを見て悲しんでおられないかどうかです。お考えになったことがありますか？

主はペテロに言ったのです。「あなたはわたしを愛しますか？」と。「わたしはあなたを神の愛で愛した。わたしは犠牲をもって、わたしのいのちを捨ててあなたを愛した。あなたはわたしを愛するか？」と。私たちが主のみこころではなくて自分の思いを選択する時に主は悲しんでおられます。主が憎んでいる罪を我々が選択する時に、主は心を痛めておられます。主によって贖われた者たちが、一つになるのではなくて、いがみ合っていたり、赦し合うことをしなければ、その罪をご覧になっている主は心を痛めておられます。私たちは一人ひとり自らの心に問いかけなければいけないのです。「おまえは主を愛

するか?」、「主が愛してくださったその愛をもって私はその愛に答えるのか?」と。

ペテロは大切なレッスンを学びました。そして、その後、彼は主に対して忠実に従い続けていきました。それは罪がなかったということを書いていないことは皆さんご存じです。しかし、彼は主に対して忠実に従って行ったのです。そして、彼は逆さに磔にされて殉教していったと歴史は語ります。死に至るまで忠実だったのです。私たちはどうでしょう?どのような信仰生活を歩んでおられますか?信仰者の皆さん、信仰のまねごとを止めなければいけません。主がこれほどまでに真剣なら、私たちも真剣であるべきではありませんか?主がここまで真剣に愛してくださったら、我々も真剣に愛するべきではありませんか?なぜ、日曜日だけクリスチャンの格好をして、それ以外の時は好きに生活するのですか?なぜ、イエスを知らない人たちと同じような生活をして、それで主を愛すると言うのでしょうか?もちろん、私たちは自分の弱さを知っています。そして、神は私たち以上に我々の弱さを知ってくださっています。私たちの神に対する愛を自慢することは出来ません。しかし、少なくとも、主を愛する者なら、私たちはその愛を現わしていくことです。もう一度、最初の所に戻っていくことです。主を愛して、主のみことばを喜んで学んで、そして、主のみこころに喜んで従って行ったあの時のことを思い出すことです。主を愛して、この主のすばらしさを伝えていったあの時のことを思い出すことです。

今、私たち一人ひとりが考えなければいけないことは、主のこの質問に対してどのように答えるかです?「あなたはわたしを愛しますか?」、あなたはどのようにお答えになりますか?その答えを、自分自身の生き方をもって現わすことです。そして、その時に主が喜んでくださるのです。そのために我々は救われ、そのために生きているのです。主の恵みを思い出して、そして、ペテロと同じように主に対して忠実に歩んで行きましょう。どうぞ、主の問いかけを忘れないでください。「あなたはわたしを愛しますか?」と。

《考えましょう》

1. 信仰を比べることはどうして間違いなのでしょう?
2. 信仰を比べるときに、どのような弊害が起こると思いますか?
3. 主の前に砕かれた者だけを主がお使いになるのは、どうしてだと思いますか?
4. あなたは主を愛していますか? それはどうして分かりますか?